

今村復興大臣福島訪問ぶら下がり記者会見録
(平成28年9月7日(水) 1650～1657 於) 福島県南相馬市)

1. 発言要旨

皆さん、どうも御苦労さまでございます。

今日は、御案内のとおり、葛尾村、川俣町、南相馬市に参りまして、復興に向けた取組についていろんなお話を伺い、また現地視察をしたところであります。

概略を言いますと、葛尾村においては除染の徹底、そして、この地域のにぎわいを取り戻すという意味で、交流拠点の復興交流館の整備、あるいは小中学校を一緒にした整備、こういったものをぜひ御支援願いたいという話や、それから農業の再開、これは農業倉庫等もありますが、そういったことを含めて、ぜひいろんな形で財源も含めてフォローアップをしてほしいという話がありました。これにつきましては、私もよく今日話を伺いましたから、いろんなことに弾力的に対応していきたいということでお答えしたところであります。

それから、ここに限らずのことかもしれませんが、やっぱりこうやっていろんな整備をしていく。そうすると、それがどういう形ででき上がるのかと、そのイメージ図をもう少し分かりやすく作って、例えば最近はやりのバーチャルリアリティみたいなことを使って、それで戻ってくる人、いろいろと考えている人にひとつイメージを与えて、それが戻ってくる大きな力になるような、そういったことも考えていいんじゃないかなというふうに思います。なかなか口で言っても皆さんイメージがわからないと思いますので、そういった取組も今後必要んじゃないかなというふうに思いました。これは南相馬市や、先ほど行ったいろいろなところでも同じようなことがあるんじゃないかなと思っています。

それから、川俣町では復興公営住宅、太陽光発電等々を見まして、それから山木屋の復興拠点に行ってみました。そして、カミノ製作所においては、納豆の製造工程も視察して、そこでつくった納豆等々を御馳走していただきまして、やっぱりああいうところで頑張っておられる経営者の方、これは何としても支えてやらなきゃいけないなと。そこで頑張っている人を支えることで、そして、それがまた起点になって、今度戻ってくる人の大きな誘引力にもなるんじゃないかなというふうに思っておりますので、グループ補助金等々の使い方等についても若干提言がございましたので、それもきちんと指導して、今言った指針に沿って、とにかくそこで頑張っていていただくように御支援をしてまいりたいというふうに思います。

それから、南相馬市では、隣に市長さんもいらっしゃいますが、皆さん方もお聞きになったかと思いますが、やはりこうやって新しい住宅をつくって、新しいコミュニティができると、なかなか時間差の問題もありますが、ちょうど過渡期といいますか、そういう中でなれない部分もまだあるようであります。ですから、それに一日も早くあそこの生活になじんでいけるように、いろんなお店の整備でありますとか、あるいは医療等のそういったサービスが十分できるようにやるということを考えなきゃいけない。そして、この住宅とはまた別に農業の問題等々も出たわけでありまして、これもやはりきちんとした整備した姿をとにかく提示をして、そしてそういったことを受けて若い人が、やっぱりやってみるかという気持ちになっていくことが大事なんじゃないかなというふうに思っております。

そして、なぜ農地の整備が進んでいないかということ、これは、ほかは随分圃場整備が進んでいるところもありますから、そことの比較をしながら、今後きちんと対応していきたいというふうに思っております。

最後に申しましたが、こういったところをいろんな整備もしていきます、ハードもソフトも。しかし、一番問題は、やっぱり自分のふるさとをとにかく元気にしたい、何としてもまたふるさとに帰ってくるんだという、そういった住民の方々の意欲といいますか、そういったものが一番大きなエネルギーになるんじゃないかなというふうに思っておりますので、そういったことも含めて、市長さんもいらっしゃいますが、ひとつ大いに村が上がっていくようなことをこれから考えていこうじゃないかというふうに思ったところでもあります。

それからもう一つ、葛尾村と川俣町では、昨日発表した例の里山再生モデル事業のモデル地区を選定させていただいたところでして、ちょうど視察先からモデル地区を見ることができましたので、大体感じが分かりまして、これもしっかりこれから実施をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 5年半経って、住民の人と膝を突き合わせてじかに話をされたと思うんですけども、その5年半経った今の様子を、大臣として目の前で見て、いろんな人の感想を聞いて何かお感じになっていることというのはありますか。

(答) 特に私は発災直後に女川へ行ったりなんかしたことがあります、もうそのときの本当に大変な状況、そして、一体どうなるん

だろうというえも言われぬ不安、そういったものからは、ある程度こういったいろんな形ができてきて、仕組みもできてきたということで、皆さんもそういう意味では一安心されたんじゃないかなと。しかし、ここまで来たけど、じゃあ、この先どうなるのという不安はまだありますから、だから、それをしっかり打ち消すことができるようなしっかりしたビジョン等々をこれから組んでいかなきゃいけないなというふうに思ったところであります。

(問) まことに恐縮なんですけど、内閣が改造されると、市民は一様に「どうなるんだろう、また元に戻ってしまうんだろう」、本当にまちのあちこちでじいさんばあさんが言っています。「そんな心配ないよ。国は継続して被災地、南相馬、浜通り、相双地区の復興に尽力する」と大臣の口から、復興支援のための小さいテレビ局なんですけど、市民みんな見ていますので、力強くおっしゃっていただけますでしょうか。

(答) 今度の内閣でも、一丁目一番地にこの復興をしっかりとやるんだということを挙げてあります。それを受けて、全員が、全閣僚が復興大臣だというつもりでやれという檄も飛んでおりますから、必ずこれはやり遂げるということで頑張ってもらいますから、ともに頑張っていくと、国も地域も住民の皆さんもということで、まさにオールジャパン、オールマンパワーでやっていくということでお誓いを申し上げます。

(問) 南相馬市の現在の帰還率が、市の調べで1,000人弱程度となっています。これは、おおよそ以前の8.8%なんですけど、これを大臣としてはどのように評価されますか。

(答) 先ほどから言っているように、これからの姿を提示していくということで、これならいけるなという思いを持っていただければ、ぐっと増えてくると思います。また、それは今の中でよく見えていなかったかなと思いますけどね。

(以 上)